

ふむふむ程度。

ちいきぶくしの練習帖



1

つながりが増えるって
どういうことだろう？

地域で暮らしているとだんだんと知り合いが増えてきて、いつのまにか「コミュニティ」の一員になっていることがあります。いいものだと思うこともあるし、面倒だ^{めんどう}なと感じることもあるかもしれません。
ここでは、「つながり」について考えてみます。



誰もが共に暮らせる地域づくりをめざして
人・もの・こと(事業)を活かして
次の世代を加えた仲間づくりを大切に

〔キーワード〕
共に生きる
力を合わせる
わかりあう

地域

地域福祉教育

地域と学校、そして家庭がつながる学びの世界

〔キーワード〕
つながること
地域での活動
学びの場づくり

学校

家庭

地域の応援で子どもたちの学びを豊かに
多様な職業人の力を学校で活かして
学校の活動を地域の活性化につないで

〔キーワード〕
学び合い
多様性を認め合う
地域につなぐ活動

子どもたちの〈生きる力〉を育むために
家庭から地域・学校に広がる〈子育て〉のために
家庭の声を安心安全の地域づくりに活かして

〔キーワード〕
家庭は福祉教育の原点
子育てから子育てへ
地域支え合い







公園の入り口にいる猫は
何を見ているのだろうか？

「コミュニティ」ってどんなつながりなのかな？

「あいさつ」、これもつながり？

ラジオ体操が始まってから、会場にみんなが集まるようになりました。いまでは町内20カ所、毎朝500人余の住民が足を運びます。地区によっては、夕方に実施して参加しやすい工夫をしています。そんなこともあって、住民が定期的に顔を合わせておしゃべりする機会が増えてきました。

ラジオ体操の時間はおよそ6分間。でも、始まりの20分も前から会場に来ている人も多くなりました。世間話や歌の練習などしながら、自然とお互いを気づかい、あいさつを交わすようになっていきます。

ある日のこと、マンションにひとりで暮らす高齢の男性が3日ほどラジオ体操に参加しませんでした。心配して仲間が訪ねてみると、「孫たちが来ていてね。心配してくれてありがとう。明日からまた行くよ」と笑顔で応えてくれました。

ラジオ体操は健康維持のためだけ、たった6分間の体操の中に、たくさんつながる世界があります。ある人は、「病院で2時間待って5分の診察より、6分の体操が一番の治療だよ」と笑って話します。そんな世界がこの町ではあちらこちらに生まれています。

「地域」とは
何だと思いますか？①

2
人も町も変わるけれど、
「変わらない」もあり？

わたしたちが暮らす町には、いろいろな人が、様々な思いを持って暮らしています。
ここでは、「町」「地元」「地域」など、いろいろな呼び方をされる「まち」と、そこにある「思い」に目を向けてみます。



・ 牛町村 **グループ** . 生きていくのに大切な所

・ 人と人のつながりの中

困っていたりしたら、お互い支えあえるところ。

・ 身近にあるけれど、他の人と交流できる場所
自分が住んでいて、ふゆあいの土場

・ 社会人の第一歩!!
自分を守ってくれる人がたくさんいる場所。

I don't know ??

人・動物・植物などの生きる場所
協力し合える
支え合える
笑い合える
話し合える
あいさつなび仲を深める

土地
共に支え合っていく人がいる場所
・ 帰るべきところ。

いざとなら助け合える
近所の人々で作りだしているもの。
場所の範囲
つながり助け合えたり、自分たちの住んでいる場所を、きれいにしようとする人たちが集まる場所

人が人としているための
人による**輪** 区・町など。

・ 生活していく上で必要なつきあひ。
成長するための第二の土場。
自分が住んでいる地区

・ かけがえのない成長を見守ってくださっている人々
・ 自分が気持ちよく過ごすための場所、
自分の故郷で、あいさつのできる場所、知っている人、いそいそと場所

つながり
いざとなったときは支えてくれる
存在的か?
・ 助け合い、支え合う 集団
・ 相手を大切にできる
・ あいさつなどをする
・ 特別なつながり

土場のくまひり 地区みたいなもの
人と関わるこり
支えあい、助けあい
協力しあえる 場所。

あたたかく見守ってくれる場所?
「あつち」が一番活発にできる所
生活していく中で、普段は関わりがなないけど、時には協力して物事を解決していく仲間?



半年後の春も



一年後の秋も



三年後の梅雨も





FukuFuku
Dental
Clinic



最初と最後のイラストで、
どのような変化がありますか？

町が変わってほしくないところ？

町への思いを伝えるとしたら、
何を伝えようか？

私が住んでいる町の通学路。
交差点で同じ時間、同じ場所に
立ってこどもたちの登校を見守る
人がいます。

守っています。

笑顔でこどもたちに声をかけて、
あいさつしています。時折、こども

雨が降っても、晴れているとき
も、雪が降りそうな寒い朝も。

たちとハイタッチしたり、じゃんけ
んしたり、手をふったり。

気がついてみれば、あたりまえの
風景になっています。

あいさつする子もいれば、ほと
んど反応しない子も。笑顔だけを
返す子も。

少し大人になったとき、そんな風
景をほのぼのと感じることもあり、
何だかなつかしくなります。

その人の名前はわかりません。

名前も知らないあなたへ。

でも、こどもたちが登校すると
き、いつも立ってこどもたちを見

あなたがそこに立ってくれてい
ることに、心から「ありがとう」。





となど、一つひとつの意味を問
い続けていくこと。

失うこともあります。

「へいのち」とは、と問いかけて
みます。

生きているということ
いま生きているということ

声をあげることができない、

それは「わたし」、それは「から
だ」、それは「こころ」、それは…。

泣けるということ
笑えるということ

手を伸ばすことができない、歩
き出すことができない、眼を開
けることができない。そんなゆ
らぎのなかにあるとき、ほん

考えてみると、へいのちには自
分がつくったものではありません
ん。だから、ほんとうはこれを傷
つけたら、殺めたりすることは
できません。

怒れるということ
自由ということ
(谷川俊太郎の詩「生きる」から)

うの人のやさしさ、愛おしさを
強く感じます。人の手の温もり
が立ち上がる勇気を与えます。

生きていることは、たくさんの

生きていることは、ときに病
むことがあれば、ときに深く

「へいのち」はへいのちにつながっ
ているからです。

「問い」をもつこと。「自分とは
何か」に始まり、家族のこと、愛
すること、勉強のこと、将来のこ

なやむこと、かなしむことが
あります。大切な人との別れ
もあれば、自分の居場所を見

雨風にさらされて汚れている
けど、いま二つのイスが並んで
残っています。



イスに座っていたのはだれ？

つらい時に逃げるのはおくびょうなことかな？

あなたの町の中でやさしい場所は？

みんなに聞いてみた

「命」をほかの言葉で

4

人生で「旬」は一度きりなのかな？



人生山あり谷あり、いろいろなことが起きます。山のときもあれば、谷のときもある。いいこともあれば、わるいこともあります。ここでは、人生について気持ちを向けてみませんか。

生物が生きていく中でなによりも大事なものは **本当の自分** 何か目的のために、人、虫、花を決しけがさないこと。

生きること、たった一つの大切なもの **宝物** 自分が第一に守るべきもの

『未来をつくる』 **大切なもの** 尊いもの **大切なもの**

・生きていくために一番大切なもの **宝物** **たましい**

であり、他の人のものも **一番大切なもの**

大切にしなければいけないもの **Life** 生きるために一番必要なもの

夢に向かって努力できる **大切!** **心臓**

時間 **大事な** **心**

可能性 **守るもの** **たましい**

・生きること **自由** **心**

・生命 **自由** **心**

ムチー - 生 **飢餓?**

・自分の過ごせる時間 **こころ** **魂** **心** **人**

宝石 **時間** **人生** **魂** **心** **人**

生命 **生まれる** **自分が歩む道** **生** **自分の宝物**

未来へつながっていく **つながり** **生** **自分の宝物**

夢と希望 **生命** **心** **電** **体の一部**

人間の源 **大切なもの** **一人に一つ** **金に変えることができない** **一人に一つのもの**

5歳の旬



13歳の旬



90歳の旬





わたしは今が
いちばん旬よ



人それぞれの「旬」はどんなものでしょう？

年れいを重ねることの楽しさはなんだろう？

人が決める「旬」、自分で決める「旬」、
なにがちがうんだろう？

大好きなおばあちゃんが老人ホームに入所しました。

休みの日、少し心配になってホームを訪ねました。

ソファにすわって、たのしそうにおしゃべりをしているおばあちゃん。

そんな様子を見てホッとしたり、でも何だか家にいるときとは違うかな。

たしかに長く暮らしてきた家とはふんいきが違うよね。

編み物が上手で、ところがしもおいしくて、ほんとうにやさしいおばあちゃん。

小さい頃はいつも抱っこして昔話をしてくれました。

大きくなっても、心配事があるとおばあちゃんにだけは相談していました。

もう家に帰ってくることはないのかなあ。

おばあちゃんの気持ち、いまだんなだろう。

「おばあちゃん、大丈夫？」

そんな心配をしているわたしに、おばあちゃんは言いました。

「わたしは、今が

いちばん「旬」よ」

生きていく

ために必要なことは？

5

ちがっていても ふつう？



自分のことを知る
理解しあえる人をつくること

仲間と協力したり
支えあったりすること。

人のことを考えられるようにする
こと。いくら頭がよくても、人のことを考えられなかったら、いい社会にはならない。フィニッシュは、生きていくために一番大切なことだと思ったり。

・一般知識と食料とお金
・誰かと協力すること

相談できるところがあること
相対対しの優しさ。

自分の自信
力があること
勇気、自信、協力。

友達、家族、助け合い

お金、食べ物、住む場所
・あまり人と深く関わらないこと
自分自身と向き合えること
自分自身を理解すること

仲間
健康であること。
衣食住

・人間関係
・毎日ゴロゴロと家で寝ることも、
・1人1人が正しい心をもつこと
しやみをとつこと

休養
・優しい心をもつ
・いい環境をつくる。

お金と人から得た
仲間と団結してある程度の知識が
技術とをもち楽しく生活できるような
働いたり、困っている人がいたら、助け合うことが必要。

人からの信用
住まう

食べ物、水、電気、家賃、健康な体。

友達と話す。
勉強、お金、幸せ。

人とのつながり、お金、食べ物と水
人とのつきあい、愛、思いやり

あきらめなさい、チャレンジ
ゆき、やさしさ、かみはる気持ち。

人と話す。
勉強する。

1日1回は景色をみる、自然と笑えること、
人との協力、知識

折れやすい心
強い心

目標
努力、人間関係、お金、命
友達、人

気持ち
勉強すること
運動、食べる、家族、食べるもの
ぬる、ルールを守る

気持ちや人を共有することはむずかしいものです。人に言うのが照れくさかったり、自分の中に大切にとどめておきたかったりもします。

気持ちがぴったり合わなくても、話を聞いてくれる人はいますし、応援してくれる人もいます。

まずは自分の気持ちを大切にすることから始めてみませんか。

・危険がなく、良い意味で何も考えなくていい状態(心配がない)

自分のニヒが何かで「おまけ」で出ること

自分がしあわせって思えたらしあわせ。

・不幸ではないこと

自分の趣味や好きなこと

人が感じられるなかで最も美しくはない感情

・自分のしたいことができること

自分の好きなことを好きなだけできること

平凡な生活を送る

人が「楽しい、器」と思えるとき

好きなこと

自由 勝手に恵まれていること

・悪いことがない

人それぞれが「感じる

人を好きになつたり、大事な人ができたり、大切なものができたとき。

全部いいことだけではない、つらいこともある。その中のいいことがしあわせ。

あたりまえの日々を過ごすこと。

生きていられること。

実際に自分がしあわせと思ってること、心の中に存在しているもの、笑うことが出来ること。

最高なとき、好きなことをするだけのこと。

自分が幸せと思ったら幸せだと思えます。

ご飯と食べていること、安全に生活していること

その人が「笑顔でくちろこと。

ねるときに今日までかたと思えること、明日にわくわくすること

愛されること。

11くらおもしろい人があっても、自分が好きな人がいなくても、愛がなかったら楽しくないことがある。少ないと私は、誰かに必要とされて、愛されること「しあわせ」と感じられる。

当たり前、と思う

ことが「できていること。

(学校に行く、友達と話す、など)

楽しいだけではないけど、とにかく楽しく「春」感じ

人の欲求が「満たされた」傷ついている人が「物がない」

あたり前に今こうしていること

おいしいものを食べたとき、嬉しいとき。

自分がしあわせと思ったらしあわせ。

1人1人、苦しい事が、吐き出せる事。

衣食住が充実していること、心身共に健康な状態であり

「楽しい」や「嬉しい」などの普通に、泣いたり、笑ったり、感情を出せること。

気持ちが良い時

楽しいやうれしいなどのプラスの感情を感じること。

・こみせにうまかったこと！
・大切に思われていること！
・好きな人がいること！

自然に喜んだり、楽しんだり、嬉しいと思うで「きごど」があること。

生きていく事

いろんな「しあわせ」がある中で私は... しあわせ = 自分の気持ちだと思えます。

何事もなく平和に過ごすこと、たまに楽しい、嬉しいこと、があることが、しあわせだと思います。

愛

ふつうに生きて、ふつうに生きて、ふつうに生きて、ふつうに生きて、ふつうに生きて。

生きていくこと

楽しく生きること

今こうやって生活できる、生きていること。

単純に「楽しいや嬉しいなど」という気持ちを感じる事ができる事

① なおに
② あいがあり
③ わらうあう
④ いかつ

自分が今やりたいことができるとき。

しあわせは、人が「喜ぶ」ことをすること

その人がしあわせだと思えたらしあわせ。

具体的な計画等はなく、今学校に来たり、いつもの生活をおくれていること、

今、ここで生きていること。

大切な人がそばにいてくれること

日常生活を送ること。

ご飯が食べられること、感情(楽しい、うれしいなど)

・しあわせだと

感じられること。

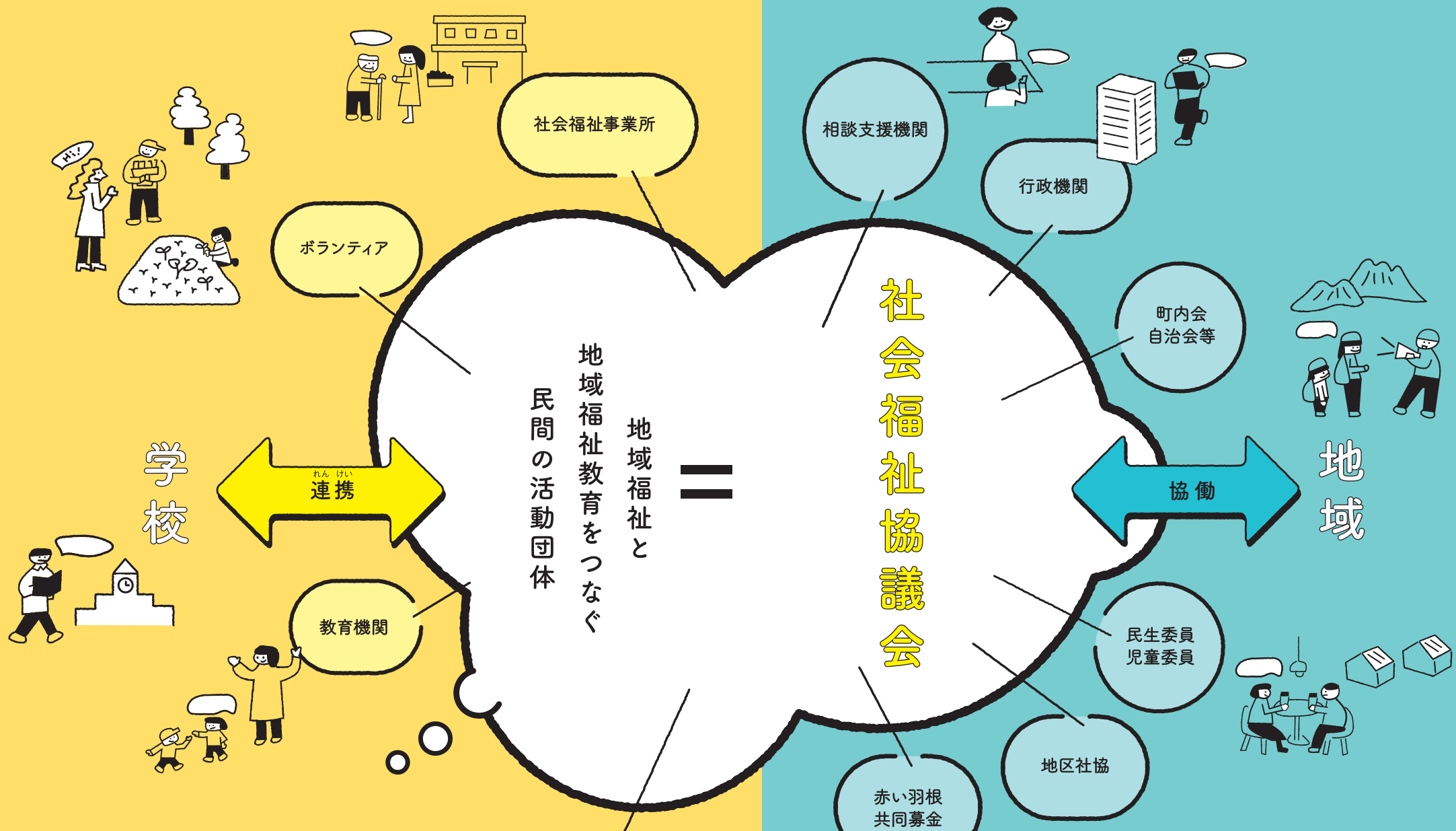
自分の気持ちが「いざいいこと。

・きらきらしたまぶしいもの。

・優しさ

・人それぞれ

それは素晴らしい質問ですが私は「しあわせ」にあまりはないと考えています。お金のせいで「勝ち組」として生きること、その人にとつてのしあわせだし、誰とも関係が「生」と終えることが「しあわせだ」と思っている人が、そうできたなら「しあわせだ」と思える。その人のしあわせが誰かを傷つけたとしても、その人がそれでいいなら「しあわせだ」です。私は自分のしあわせを見つけた生きている人が「しあわせだ」と思っています。



本来、人は「共生」のなかで、だれもが人生の物語を大切につむいで生きています。「いのち」へ「生活」はかけがえのないテーマです。

地域福祉教育は、学校において、地域において、こうしたテーマについてみんなで学びあい、共に活動していく生涯にわたる学習プログラムです。

社会福祉協議会は、すべての住民が安心して快適に暮らせる「福祉のまちづくり」をめざして、住民や諸団体が地域で協働するためにつくられた活動団体です。都道府県・市町村のすべてに設けられています。

その活動は、コミュニティ・ソーシャルワーカー（CSW）が担い、地域の困りごとを解決するための相談・支援、地域福祉教育の推進・拡充、ボランティアの普及・啓発など、多方向にわたっています。

おわりに

ひとりの教師と3人の子どもたちの前に、10個の「あんパン」があります。「みんなで公平に分けてください」と声がかかりました。

ある子は「2個半ずつ、四等分すればいいよ」と言い、別の子は「3個ともは3個ずつ、おとなは1つ」と言います。もうひとりの子は「おとなは4個、子どもは2個ずつ」。三通りの分け方が出ました。

四等分すれば損得はないかもしれませんが、おとなと子どもには差があるのでしょうか。「おとなは1個だけ」でも、「子どもが2個ずつ」でも、どこか公平でないような気がします。

そもそも「公平」って何でしょうか。「あなたは何個ほしいですか」とたずねたとき、お腹が空いている子が遠慮して「1個」、お腹いっぱいの子が欲ばって「3個」「ほしいと言えば、どちらも「公平」ではありません。数や形だけ合わせるのではなく、一

人ひとりの心によって応えあっていくことにこそ、ほんとうの意味があるからです。

この冊子をつくっていく中で、地域生活のエピソードがたくさん集まりました。エピソードとは自己の心と他者の心がつながったときに生まれる物語のことです。そこに定型の答えは何ひとつありません。でも心がつながっていれば、わかりあり、わかちあう世界が無限にひろがっていきます。

各章には、それぞれのテーマについての答えや解説ではなく、皆さんに自分で考えたり話し合ったりしてもらったための「きっかけ」や「問いかけ」だけを間接照明のようなやり方です。「わがこと気分」で、気になったテーマにチャレンジしてください。

静岡県社会福祉協議会地域福祉教育副読本 ちいきふくしの練習帖「ふむふむ程度。」

発行 社会福祉法人静岡県社会福祉協議会
〒420-8670 静岡県静岡市葵区駿府町1-70
TEL:054-254-5224 FAX:054-251-7508
E-mail:spcsw@shizuoka-wel.jp
http://www.shizuoka-wel.jp



◀「静岡県地域福祉教育について」のページはこちら

発行日 令和5年3月

協力 静岡県地域福祉教育推進委員会(作業部会)
静岡県教育委員会義務教育課
長泉町立北中学校 生徒たち・福祉委員会・美術部

タイトル原案 KAN(HAHAHANO.LABO)

イラスト 表紙、扉 柏森たま。
p.6、7 asako unno
p.12-19 HAHAHANO.LABO
p.28、29 近藤ユキエ(写真)

デザイン 二宮奈緒子(skybeans)

編集・デザインプロデュース 鈴木一郎太(アーツカウンシルしずおか)

助成 赤い羽根共同募金(社会福祉法人静岡県共同募金会)

じぶんの町を良くするしくみ。 赤い羽根共同募金

私たちの住むまちには、お年寄りや障がいのある人、子育て中の人など、暮らしていくのに助けが必要な人たちがいます。みんなが暮らしやすくなるお手伝いをするために、みんなでちょっとずつ助けあう。じぶんの町をよくするしくみ。それが「赤い羽根共同募金」です。助けが必要な人たちのために、いろいろなボランティア団体などが活動しています。活動に必要なお金を1人で出すのは大変なことだけど、みんなでちょっとずつ寄付すれば、より多くのお金が集まって、たくさんの方が活動にかかわることができます。ひとりひとりの小さなお金。そのお金に「誰かの助けになりたい」という気持ちがこもって十人、百人、千人と集まれば、大きな力に変わります。この地域福祉教育副読本にも、みんなの想いが詰まった赤い羽根共同募金が活用されています。

Handwritten notes in blue ink on the right side of the page, including phrases like '韓国アイドル', '野球', 'ゲーム', '音楽', '絵を書く', '空を見る', 'おかしを作る', 'おはよう', '自分から弾き出す曲を弾いてみる', 'ボカロ', 'グッズ集め', '里予玉球', '韓国アイドル', 'ゲーム音楽を聞くこと', '絵を書く', '空を見る', 'おかしを作る', 'おはよう', '自分から弾き出す曲を弾いてみる', 'ボカロ', 'グッズ集め', '里予玉球'.